



京都大学

第13回 市民防災講座 - 災害リスクを考える -

参加無料

豪雨・土砂災害に備える

【日時】平成29年 7月9日(日) 13:30~16:15

【場所】松江勤労者総合福祉センター(松江テルサ)大会議室(4F)

内容

司会 京都大学大学院 工学研究科 准教授 伊豫部 勉 JR松江駅北口から徒歩1分

主催者挨拶

京都大学大学院 工学研究科 教授 杉山 友康

講演

● **ゲリラ豪雨の予兆を探る**
京都大学 防災研究所 准教授 山口 弘誠

● **土砂災害のしくみと被害**
鳥取大学大学院 工学研究科 准教授 中村 公一

● **災害時に備えて - 防災対策能力の向上 -**
香川大学 工学部 教授 井面 仁志

事例紹介

● **土砂災害への備え**
島根県 土木部砂防課 企画幹 郷原 薫

● **降雨災害に対する取組み**
西日本旅客鉄道株式会社
執行役員米子支社長 梅谷 泰郎



平成9年 出雲市



昭和58年 浜田市

写真提供: 島根県

※講演者及び講演内容が変更となる場合があります。

【定員】 120名 先着順 (お申し込み 6月30日(金) 締切)

【申込先】 京都大学災害リスクマネジメント工学(JR西日本)講座 市民防災講座 事務局係

お申し込みは、右のQRコードから「参加申込」へアクセスするか、メール又はファックスで。

メール: info@ise.kuciv.kyoto-u.ac.jp FAX: 075-383-3410

【その他】 ホームページ <<http://www.ise.kuciv.kyoto-u.ac.jp/lab/>>

お問い合わせ TEL: 075-383-3114



主催: 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 災害リスクマネジメント工学(JR西日本)講座

後援: 国土交通省中国地方整備局/島根県/松江市/公益社団法人地盤工学会中国支部

公益社団法人土木学会中国支部/山陰中央新報社/新日本海新聞社

協賛: 西日本旅客鉄道株式会社

京都大学市民防災講座

— 災害リスクを考える —



京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 災害リスクマネジメント工学 (JR西日本) 講座 では、JR西日本からの寄附により、平成25年4月より、自然災害に対する鉄道や道路などの社会基盤設備の総合的管理技術、交通規制といったソフト対策技術の確立を目指した研究を進めています。

これらの研究を進めると同時に、防災・減災に関係する幅広い研究者の方々から講演をいただき、市民のみなさまの防災に対する意識の向上と、避難時の行動や住民同士の協力の重要性を理解していただくことを目的に市民防災講座を企画しました。

第 **13** 回

7 月 **9** 日(日)

第1講 豪雨への備え

ゲリラ豪雨の予兆を探る

京都大学 防災研究所

准教授 山口 弘誠

毎年のように発生する豪雨災害を防ぐために、事前の兆候(予兆)をいち早くかつ正確に捉えることが有意義です。偏波レーダー等の最新技術や数値モデル予測の現状を取り上げながら、近未来の実用化を目指したゲリラ豪雨予測研究の最前線について紹介します。

第2講 豪雨・土砂災害への備え

土砂災害のしくみと被害

鳥取大学大学院 工学研究科

准教授 中村 公一

土砂災害にはいくつかの種類があるが、そのなかでも土石流は大災害となることが多くあります。土石流の動画も用いて土石流のしくみについて説明し危険性を認識することで、防災意識の向上に役立ててもらいたいと思います。

第3講 自然災害への備え

災害時に備えて—防災対策能力の向上—

香川大学 工学部

教授 井面 仁志

自然災害並びに人為災害が巨大化、多様化、複雑化し被害が広域化・甚大化する事態を受け、今後ますます想定を超える災害に直面する可能性が高くなっています。従って地域の被害を最小限にとどめるためには、個人の防災コンピテンシーの向上が望まれます。そこで、過去の災害時の人の行動特性と災害対応能力訓練システムを用いた、防災対応能力向上訓練の紹介を行います。

豪雨・土砂災害に備える

～ 事例紹介① ～

土砂災害への備え

島根県 土木部砂防課

企画幹 郷原 薫

多発化・激甚化の一途をたどる土砂災害から身を守るには、日頃の備えと早めの避難が重要です。島根県では対策施設の整備などのハード対策に加え、防災情報の提供や啓発活動などソフト対策を推進し、土砂災害に強い県土づくりを進めています。

～ 事例紹介② ～

降雨災害に対する取組み

西日本旅客鉄道株式会社 執行役員米子支社長 梅谷 泰郎

近年、各地でゲリラ豪雨が発生し、大きな被害をもたらしています。米子支社管内でも、毎年、降雨による災害が発生し、幾度となく大きな被害を経験し、対策をしてきました。この経験や過去の資料を基に振り返りを行った上で、安全運行を確保するための当社が取り組んでいる事例を紹介します。

